人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	価値的・態度的側面のみならず、知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ、実践力・行動力の育成につながっている事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

宮崎県小林市

○学校名

宮崎県立小林秀峰高等学校

○学校のＵＲＬ

http://cms.miyazaki-c.ed.jp/6050/htdocs/index.php?page_id=0

２．学校紹介

○学級数

【農業科】３学級　【機械科】３学級　【電気科】３学級【商業科】３学級
【経営情報科】３学級【福祉科】３学級　【合計】１８学級

○児童生徒数

【全生徒数】６２９人（平成２７年１１月２５日現在）
（内訳：１学年 192 名、２学年 221 名、３学年 216 名）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

宮崎県教育委員会『支え合う仲間づくり「ピア・サポート活動」推進事業』
平成２６年度「ピア・サポート活動」推進校
平成２７年度「ピア・サポート活動」推進校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
日本国憲法、教育基本法並びに県教育基本方針、人権教育基本方針に則り、人格の完成を目指し、真理と正義を愛し、広い視野に立ち、次の資質を備える有為な人材の育成に努める。①スペシャリストをめざして学ぶ意欲を持ち続ける人　②心豊かでたくましく、自ら考え行動できる人　③郷土を愛し、郷土の発展に貢献する気概を持つ人

【人権教育に関する目標】
生徒の発達段階に応じて、人間の尊厳や人権の尊重についての自覚を高め、科学的・合理的精神を養い、人と人との間に存在する不合理な差別を解消するため、真に基本的人権を尊重する人間の育成を目指す。

○人権教育に係る取組一口メモ

各学年及び学年を越えた参加体験型の活動を通して、思いやりにあふれ支え合う学校風土醸成の実践

〇人権教育にかかる取組の全体概要

○ 学年毎に各学期に１回、ＬＨＲ活動の時間を設定し、人権教育やピア・サポート活動を行っている。（３学年のみピア・サポート活動は１学期に１回）
○ １学期は特に新入生に配慮し、先輩が後輩に教える活動を行っている。またピア・サポート活動の一環としての講演会を、全校生徒を対象に行っている。
○ ２学期には、人を思いやるための素養を広く身につけさせるため、特に１・２年生に統一ＬＨＲ（ピア・サポート活動）を実施している。
○ 年間を通して、各活動後に全校生徒・職員にピア新聞を発行している。活動の様子や感想文を一部掲載し、活動内容を振り返ることを目的としている。

３．特色ある実践事例の内容

◆ピア・サポート活動を取り入れた人権教育の取組

（取組のねらい、目的）

本校は総合制専門高校であり各学年各学科１クラスの為、３年間クラス替えがない。また本校は小林市周辺の多くの中学校から生徒が集まっているので、高校入学後、孤立感をもつ生徒がいる。早い段階で「ピア・サポート活動」を行うことで、新入生が抱える漠然とした不安を払拭できると考えた。本年度「ピア・サポート活動」推進校２年目を迎え、小・中学校との連携を行っている。本校生徒及び地域の子供たちの間にも「思いやりの輪」が広がるように活動の充実を図る。

（取組を始めたきっかけ）

本校がピア・サポートの取組を始めたのは、平成２６年度に宮崎県教育委員会から「ピア・サポート活動」推進校の指定を３年間受けたことをきっかけとする。

（取組の内容）

宮崎県教育庁人権同和教育室主催の県内外の研修が大変参考になった。昨年度は活動１年目であったが、校内推進委員会や本校職員の協力を得て、１学期当初より１年生に配慮した活動や全校生徒向けに講演会を実施することができた。２学期には、ピア・サポーターとしての素養を広く身につけさせため、１・２年生を対象として統一ＬＨＲを行った。活動後にピア新聞を随時発行し、活動内容を職員も生徒も振り返ることができた。昨年度の研修内容は以下の通りである。

第１回(6/5)　全職員に県からの「ピア・サポート」説明冊子配布
第２回(6/9)　全校生徒に体育館で「ピア・サポート活動」について説明
第３回(6/18) 1年生統一ＬＨＲ「先輩教えて（お手紙書き活動)」実施
第４回(7/4)　「講演会」テーマ「よりよいコミュニケーションの在り方」
(宮崎県スクールカウンセラー　臨床心理士　吉村美江子　氏)
第５回(7/10)　３生生（終礼時)「先輩教えて（お返事書き）活動」
第６回(9/18) 小林秀峰思草アンケート（挨拶の仕方についてのアンケート）
第７回(10/21) ２年生統一ＬＨＲ「聴く」
第８回(11/4)　１年生統一ＬＨＲ「聴く」
第９回(11/21) 文化祭で３年生ピア委員（各クラスの副委員長）が、１・２学期に行った「ピア・サポート活動」についてパワーポイントで発表
第10回(1/8)　第１回校内ピア・サポート職員研修「エゴグラムによる自己変革」

※１２月と１月にピア委員による朝の挨拶運動実施
※年間７回、ピア新聞を全校生徒（保護者）・職員に配布

【 １年生統一ＬＨＲ「聴く」】

【 ２年生統一ＬＨＲ「聴く」】

（取組の主体や実施体制）

本校の場合、ピア・サポート担当者が主体となって活動している。昨年度のピア校内推進委員会は、管理職２名・各学年主任・担任代表・副担任代表・教育相談部計１７名で構成されている。２年目の今年度は、管理職２名・教務主任・各学年主任・教育相談部計９名で構成されている。統一ＬＨＲ、他全て担当者が企画立案するが、各クラスでは担任１名、副担任２名の計３名で実施する。

（取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫）

平成２６年度は、「ピア・サポート活動」１年目であったが、年度当初より職員の理解を得ながら様々な活動を行うことができ、生徒の取組も良好だった。

〈ピア・サポート活動に参加した生徒の感想〉

（１）「先輩教えて活動」に参加して

- 自分のためにわざわざ過去の体験まで書いてくれてとても参考になりました。
- 「商業検定試験３種目１級を取るように」と具体的に教えていただけたので、今後の目標を立てるのにとても助かりました。・真剣に答えてくれたのでとてもうれしく、今後の励みにしていきたいです。ありがとうございました。（1年生）

（２） ２年生統一ＬＨＲ「聴く」に参加して

- この体験を通して、「聴く」とは相手の表情や心を見ることだと思いました。相手が伝えたいことをきちんと聞き取れるように努力すれば、相手との距離は縮まり、自然と心を開いてくれると思いました。（２年生）

〈課題〉

- 課題としては、やはり職員の共通理解が挙げられる。宮崎県教育委員会からの資料や担当者が受講した研修等の記事を載せたピア新聞を全職員に配布したものの、今後の活動に更に理解・協力を得るためには、やはり一度きちんとした職員研修が必要であると考えた。もう一つは、年度当初よ

り「ピア・サポート活動」を学校行事に組み入れる必要があった。

そこで平成２７年度より課題の改善を図った。まず６月に宮崎県教育研修センターの佐藤広規指導主事をお招きし、「ピア・サポート活動」に関する職員研修を行った。多くの先生方に参加していただき大成功だった。また本年度、年度当初より学校行事に「ピア・サポート活動」を入れ、計画的な実施ができた。

４．実施する際に生じた課題及びその解決策

（取組を実施する際に生じた課題）

本年度よりピア委員が各クラスにクラス役員として位置づけられ、担当者からの連絡を受けたり、学期ごとに２～３日間挨拶運動を行うなど責任をもって活動している。ただピア委員が主体的に活動する機会が十分に設定できていない。

（課題に対する解決方法）

本年度１学期、１年生を対象に「ピア・サポート」ガイダンスを担当者と２年生のピア委員が中心になって体育館で行った。また商業科・経営情報科の生徒たち４名がピア新聞を作成しているが、活動内容についても定期的に意見交換を行っている。ピア委員が主体となることで、生徒間に活動内容が浸透すると思う。

５．実践事例の実績、実施による効果

（取組の実績）

本年度のピア・サポート活動は、昨年度の反省を踏まえ以下の内容で実施した。

第１回(4/22) １年生に「ピア・サポート」ガイダンスを体育館で放課後実施
第２回(5/7) ２年生に統一ＬＨＲ「エゴグラム」（自分を知る）
第３回(6/15) 職員研修　　15：10～16：00
（参加者）本校職員　小林中学校（３名）小林小学校（１名）
テーマ「学校教育におけるピア・サポート活動の効用」
（宮崎県教育研修センター　情報・相談課　指導主事　佐藤広規　氏）
小・中・高連絡会　16：10～16：30
（参加者）本校教育相談部（２名）小林中学校（３名）小林小学校（１名）

第４回(6/16) １年生統一ＬＨＲ　「先輩教えて（お手紙書き）活動」
第５回(6/22～26の終礼時) ３年生「先輩教えて（お返事書き）活動」
第６回(7/8) 全校生徒に講演会
（参加者）本校生徒・職員　小林中学校（１名）小林小学校（１名）
生徒保護者（６名）
テーマ　「『人を思いやる』ということ」
（宮崎県立高城高等学校教諭　牧薗仁志　氏）
第７回(7/9)　１年生に「先輩からのお返事返し」・感想文記入
第８回(10/20) ２年生統一ＬＨＲ「アサーション」小林小学校（１名）参観
第９回(10/27) １年生統一ＬＨＲ「聴く」小林中学校（１名）小林小学校（１名）参観

第10回(12/1) 小林中学校（1学年）に「ピア・サポート活動」に関する講話予定
（参加者）1年生(１５４名)担当職員(１０名)

第11回(12月) 全校生徒にアンケート「ピア・サポート活動を振り返って」予定
第12回(１月) 1年生統一ＬＨＲ「エゴグラム」(自分を知る) 予定
※各学期にピア委員による朝の挨拶運動実施
※年間１０回、ピア新聞を全校生徒（保護者）・職員に配布

【校内ピア委員】

【先輩教えて活動】

【職員研修】

【第１回小・中・高連絡会】

【ピア新聞第４号】

【２年生統一ＬＨＲ】

(取組が効果を上げた実際の事例)

平成２５年の転退学者は計１３名だったが、ピア・サポート活動を始めた平成２６年の転退学者は計３名だった。本年度(１１月２５日現在)は転退学者は計２名である。１学期に行った「先輩教えて活動」に関する１年生の支持率が昨年度は８４％だったが、本年度は９７％と増えている。ほとんどの１年生から、この活動に対しての支持があったと考えている。また各活動後に生徒に感想文を記入させているが、その一部をピア新聞に載せている。その感想文を読むと、私たちが予想した以上のすばらしい感想が寄せられているのが分かる。

(ピア・サポート活動に参加した生徒の感想)

(１) 1年生統一ＬＨＲ「聴く」に参加して

自分がふだん、友達に対して、どんな態度で聴いているのか、友達が気持ちよく相談できるか、自分の聴く態度を改めて見直す時間になりました。この活動を生かして、ＦＥＬＯＲを忘れずに、３年間このクラスで学校生活を楽しみたいです。(１年生)

(２) ２年生統一ＬＨＲ「アサーション」に参加して

自分の意志を伝えることも大事ですが、攻撃的な言い方もノンアサーティブな言い方も相手と気まずくなると分かったので、アサーティブのように自分も相手も大事にする発言をしようと思いました。(２年生)

(取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項)

１学期高校総体後に、宮崎県教育研修センターより佐藤広規指導主事に来ていただき、「ピア・サポート活動」の必要性について本校職員・近隣の小中校の先生方に講義をしていただいたことが、その後の活動への理解につながった。先生方の協力で、生徒はＬＨＲ「ピア・サポート活動」の時間には積極的に取り組んでいる。更に今後は、ＬＨＲ終了後も、活動を通して学んだ「自他を尊重し人を思いやること」が生徒の心に永遠に息づくような手立てを考えていく必要がある。

６．実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

繰り返しになるが、本校は各学年各学科１クラスのため３年間クラス替えがない。各科の専門学習内容も１年次より結構難しい。まず新入生が高校生活への不安を払拭することを目的とした「先輩教えて活動」に、ほとんどの新入生から多くの支持が集まっているのは感想文からも統計からも一目瞭然であり、評価できると考えている。またその他の活動においても、感想文等を読むと生徒たちが楽しそうに、そして主体的に取り組んでいるのがよく分かる。

(保護者や地域住民からの反応)

ピア新聞を各活動後に全校生徒（保護者）に発行している。本年度、小・中・

高連携が始まったので、これを機にこの小・中・高連携を大事に育てていくことが、地域に根ざした活動につながっていくのではないかと思う。

（現在、実施に当たって課題と感じていること）

最近の生徒たちの幼児化が懸念され、生徒間の問題解決能力が著しく低下してきているとよく言われているが、本校も例外ではないと考えている。生徒間の思いやりを培うだけでなく、生徒間のコミュニケーション不足を補う意味でもこの「ピア・サポート活動」は、昨今の生徒たちには必要不可欠であると思われる。定期的に活動を実践しても、この活動の成果が見えにくいところがあるが、一つ一つの活動の試みが生徒一人一人の心に響いていると信じて、今後も生徒を主体とした「ピア・サポート活動」を続けていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

宮崎県立小林秀峰高等学校

本校は、総合制専門高校として各学年に６つある学科ごとに１クラスの編成となっており、３年間クラス替えがないという環境のもとで、クラス、学年の壁を取り払った参加体験型の活動を取り入れることにより、孤立しがちな環境に対応した人権教育を実践している。とりわけ、１・２年生を対象とした学年統一ＬＨＲでは、一つのテーマを学年全体で取り組むことにより、学年としての連携・一体化を図ろうとしており、また、学年を超えた交流となる、１年生の「先輩教えて（お手紙書き活動）」と３年生の「先輩教えて（お返事書き活動）」は、異なる学年間の交流として特色ある取組である。さらに、ピア活動終了後に活動の様子や感想などを載せたピア新聞を発行し、取組についての検証材料等を提供していることは、人権教育にとって大切な振り返りの在り方を示唆する取組として参考になる。